

自立活動だより

静岡大学教育学部附属特別支援学校 特別支援部

平成29年10月2日(月)発行

日常生活の指導～小学部の実践より～

子どもたち1人ひとりにとって「楽しい学校(学級)」になるために

ポイント①<ハンドサインや絵カード・イラストを活用した朝の会>

*2心理的な安定(1)情緒の安定に関すること、6コミュニケーション(2)言語の受容と表出に関すること

小学部に入学してくる子どもたちは、字を読むことが難しかったり言葉が不明瞭だったりすることも多いです。そのため、1日の生活の流れの見通しを持つことが難しく、入学当初は登校に抵抗を感じることもあります。見通しが持てないことで、不安を感じたり情緒が不安定になったりしないように、小学部の朝の会では、予定黒板に絵カードやイラストを提示しどんな授業を行うのか視覚的にわかるよう支援をしています。また、ハンドサインを使って進行することで、言語に課題を抱えている子もハンドサインを使ったやり取りの中で、伝える喜びや楽しさを味わえるよう工夫を行っています。

このハンドサインや絵カード・イラストは、学年が上がるにつれてイラストから文字へ、サインから言語への支援へと移行させるなど、個の実態や学年に応じて見通しを持たせる支援を行っています。



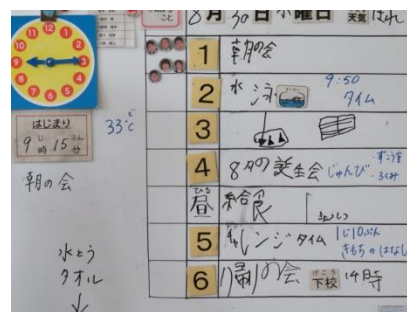
小学部1組

<絵カードやイラストを使った予定黒板>



小学部2組

<ハンドサインを使った朝の会の様子>



小学部3組

<文字(漢字)がメインの予定黒板>

ポイント②<心理的抵抗を軽減するための支援>

*2心理的な安定(2)状況の理解と変化への対応に関すること

3年生のAさんは、内科検診や歯科検診など検診に対する抵抗感があり、1年生の時には検診時に「怖い」と泣いてしまい、検診を受けられないこともしばしばありました。2年生になってからは、検診の日の朝の会で、どんな検診をやるのかを説明し、どんなことをやるのかを友達にお手本になってもらって見て、実際に使う器具で練習してから、検診に臨みました。少しずつ状況を理解していくステップアップの支援を行うことで、現在では多少不安になることはあっても、検診の説明だけで状況を理解することができるようになってきています。逆に4年生のBくんは詳しい説明や練習をすることでより不安感が強くなるため、直前にイラスト使って説明する方が有効であるなど、個々の実態に応じた配慮をしながら支援しています。



実際に使ったイラスト

ポイント③<絵カードによる自己の感情理解に対する支援>

*6コミュニケーション(3)言語の形成と活用に関すること

小学部には、障害の特性によって言語が不明瞭だったり言語の表出が難しかったりする子どもや発達段階によって言語の未習得の子どももいます。このような子どもたちには、まず言語を獲得させていく必要があるため、絵カードの中から自分の感情を選択したり教師が対話をしたりする支援を日常生活の指導の中で続けていくことで、少しずつ言語の習得と形成を目指しています。



嬉しい気持ちを相手に伝える